

年度	科目名	課題領域	単位数		
2024年度	外国につながる児童生徒の教育I	子どもの実態の把握 社会的背景の理解	1		
授業の目的	1. 外国につながる児童生徒の現状と背景についての理解を深め、その実態の多面的な把握の視点を獲得することを目指す。 2. 外国につながる児童生徒の生活上・学習上の困難点を理解し、文化的多様性を尊重しながら学校生活を支える視点や支援体制について考える。				
学修目標 (目標とする資質・能力)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものシグナルを見逃さず、文化間移動と発達の視点をもってその困難さを理解することができる。《捉える力：ア》 ・子どもの心理的状況を文化適応や家庭の状況に関連づけて理解することができる。《捉える力：イ》 ・認知面の力と教科等の学力を、年齢的な発達や学習経験を考慮して捉えることができる。《捉える力：エ》 ・文化間移動や家族の状況を、グローバル化や歴史的背景、社会制度の変化等に関連付けて理解することができる。《捉える力：カ》 				
各回の授業内容					
回	月日	時間帯	授業テーマ	内容概略	担当教員／ゲスト講師
1	8月22日 (木)	午前1 (90分)	本プログラム（愛称：つながるプログラム）の概要とオリエンテーション	本プログラム（外国につながる児童生徒の教育I～IV及び教育実践研究）の概要及び履修方法等についてのオリエンテーションを通じ、本プログラム受講の意義について考える。▷N	八幡（谷口）彩子、山城千秋、藤中隆久（教育学研究科教授）ほか
2		午前2 (90分)	「豆の木モデル」とは：本プログラムで育成を目指す資質・能力について	「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム(豆の木モデル)」を踏まえ、本プログラムで育成を目指す資質・能力について理解する。▷N	
3		午後1 (90分)	熊本県における外国につながる児童生徒の教育の状況	熊本県においても、外国につながる児童生徒が学ぶ学校が増加している現状と、熊本県教育委員会の対応施策について理解する。▷A, B, C	
4		午後2 (90分)	日本語指導の実際、外国につながる児童生徒の状況、学校現場の取組	日本語指導の実際について知るとともに、外国につながる児童生徒がおかれた状況や学校現場の取組について理解する。▷A, I, J, M	
5	8月23日 (金)	午前1 (90分)	熊本市における外国につながる児童生徒の教育の状況	熊本市における外国につながる児童生徒の教育の状況と、日本語指導センター校・拠点校等における取組について理解する。▷A, C, M	寺前研太郎（熊本市立黒髪小学校校長） 注：黒髪小学校は日本語指導センター校
6		午前2 (90分)	よりよい学びの場をつくるために	熊本県・市における外国につながる児童生徒の教育の状況や学校現場の取組を踏まえ、よりよい学びの場をつくるためには何が必要かを考える。▷C, L	八幡（谷口）彩子、山城千秋、藤中隆久（教育学研究科教授）ほか
7		午後1 (90分)	外国につながる児童生徒の教育の課題	外国につながる児童生徒の教育に関する全国的な動向、子どもの第二言語習得のプロセスや言語発達と教科学習の関係、異文化接触や心的文化変容についての知識を得て、外国につながる児童生徒の教育を充実させていく上での課題についての理解を深める。▷A, B, D, E, F	齋藤ひろみ（東京学芸大学教授・文部科学省外国人児童生徒等教育アドバイザー） ※オンライン講義を教育学部講義室にて受講、質疑応答を実施
8		午後2 (90分)	子どもの文化適応・言語発達の課題		
履修条件	現職教員及び教員免許保有者（大学院生を含む）				
評価の方法	授業への参加、事後アンケート				
<p>表中の《捉える力：ア～ク》の記号は「豆の木モデル」において、外国人児童生徒等教育に携わる教師に「求められる具体的な力」を、また、▷A～Nの記号は同じく教員の「養成・研修の内容構成」に該当する。詳しくは、次の文献のpp.5-10を参照。公益社団法人日本語教育学会（2020）『外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」ガイドブック』（https://mo-mo-pro.com/report）</p>					